

～この悲しみを力に、ともに生きる社会を実現します～

平成 28 年 7 月、障がい者支援施設である県立「津久井やまゆり園」において発生した大変痛ましい事件は、障がい者に対する偏見や差別思考から引き起こされたと伝えられ、社会に言いようのない衝撃と不安を与えました。

神奈川県では、このような事件が二度と繰り返されないように、この悲しみを力に、断固とした決意をもって、ともに生きる社会の実現をめざし、ここに「ともに生きる社会かながわ憲章」を平成 28 年 10 月に策定しました。

- 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます

神奈川県では、「ともに生きる社会かながわ」の実現に向けた施策を推進しています。学校においても、より一層「ともに生きる社会かながわ憲章」を広めていただき、障がいや障がい者に対する理解を促進し、誰もが個性を尊重されるとともに、孤立したり、排除されることのないよう、ともに生き、支え合う社会の実現に向けた取組の推進をお願いします。

障がい者に対する理解の促進

障がいのある児童・生徒の人権への配慮が必要であることはもちろん、障がいや障がい者に対する理解を促進することで、障がい者への偏見や誤った思い込みをなくし、ともに生きていくことが求められます。学校は、障がいのあるすべての児童・生徒が、安心して安全に学べる環境でなければなりません。障がいのある児童・生徒の中には、自分の考えや思いをはっきり表現できなかつたり、人権侵害を受けた状態を理解できなかつたりする子どももいます。教職員は、個々の児童・生徒の大切さを改めて強く自覚する必要があります。

さらに、障がい者による講話や、障がい者との交流、体験活動をとおして、障がいについて正しい理解を深めるとともに、児童・生徒が、障がいについての偏見や差別意識をもつことなく、相手の立場から考えようとする態度をみに付けられるようにすることが大切です。

次のページで、全国中学校人権作文コンテストの入賞作品を紹介します。「津久井やまゆり園」の事件を受けて、中学生が書いた作文です。先生方にお読みいただくだけでなく、授業などでご活用いただければと思います。

「誰にも同じ生きる価値」

一年前の七月に、相模原で多くの障がい者の命が奪われた恐ろしい事件が起こりました。この事件の犯人は、「障がい者は、生きている価値がない、親がかわいそうだ。だから安楽死させるべき」という考えのもと、犯行に至りました。

私には、見た目には分かりにくいけれど、知的障害のある妹がいます。あまり多くの言葉を持たない妹だけど、嬉しい時には笑い、悲しい時には涙を流し、くやしい時には怒る、私にとってはごく普通の十二才の女の子です。もし私の妹が、障がいがあるから死んだ方がいい、と言って殺されたら、私たち家族は、悲しみのどん底に落とされ、犯人を一生許せないでしょう。

私と妹の生きる価値に違いはあるのでしょうか？ 以前、妹が通っていた療育センターの園長先生は、自閉症の人たちについてのお話の中で、「人それぞれ血液型が違うように、脳のタイプが違うだけ」と仰っていました。血液型はみんな違います。性格だって全く同じという人はいないでしょう。たったその程度の違いなのに、生きる価値に違いなんてあるはずがありません。たまたま私は健常者として生まれ、妹はたまたま障がい者として生まれて来ただけです。もしかしたら私が障がい者として生まれて来ていたかもしれません。

社会の中には、犯人と同じように、「生産性のない障がい者はいらぬ。」と言う人も多く出てきました。ネット上で匿名で犯人に同調する人が多く出てきて、驚きました。たしかに障がい者はお金を生み出せないかもしれません。でも、何事にも一生懸命に取り組む姿を見て、私はいつも勇気をもらいます。頑張ろうと思います。私は障がい者に生きる価値がないと言う人たちに言いたいです。もしも自分の子供が障がいを持って生まれて来たら、もしも自分の身内がある日突然、事故や病気で障がい者になってしまったら、今と同じ事が言えますか？と。

事件の後、障がい者の人たちはどのような気持ちで生活しているのでしょうか。町を歩いている時、電車に乗っている時、自分の周りにはいる大勢の人たちの中にも、自分の事を「死んでしまえばいいのに」と思っている人がいるかもしれないと思ったら、大変な恐怖なのではないでしょうか。

多くの健常者にとっては、障がい者の方は遠い存在だと思います。私も妹がいなかったら、一生関わりを持たなかったかもしれません。最近では、グループホームという形で地域の中で暮らす障がい者の方たちも増えてきました。でもまだまだ地域の住民に受け入れられないという現実もあります。昔、障害者施設を建てる時、地域の人々が障がい者に会う際には妊婦さんはお腹に鏡を付けて会ったそうです。生まれて来る子供に障がいに移らないようにそうしたそうです。今はそこまでの事はないけれど、よく理解されていない点はたいして変わっていないのかもしれません。

もっともっと、健常者と障がい者の交流が深まれば良いと思います。例えば子供の頃から学校などで障がいを持った友達と遊ぶ機会が全員にあれば、今回の事件の時だってその

子の顔を思い出し、他人事とは思わなかっただろうし、犯人に同調なんかしないで、被害にあった人たちや、そのご家族の悲しみに寄り添えたのではないのでしょうか。

相模原事件の犯人は、「家族がかわいそうだ」と言いました。確かに普通の子育てより何倍も大変な子育てだろうと思います。私の母も明るくしていますが、妹が小さい頃は、妹の将来に不安を感じてよく泣いていたそうです。今でも、自分たちが死んだ後のことは、いつだって心配だと言います。だからと言って、妹が死んでしまったら楽になるのでしょうか？まったく違います。悲しみに暮れ、生きる望みを失くすと思います。妹は、家族の癒しであり、世界でたった一人の大切な存在だからです。母は、妹が小さい時から近所の人たちに妹の事を打ち明けてきました。妹を理解してもらい、一人で困っていたら助けてもらえるようにと考えたからです。この世の中は、障がい者にとってはまだまだ生きにくく、妹の人生は私の人生よりもずっとハードな障害物競走のようなものになるだろうと思います。妹は時々、思い出したかのように「お姉ちゃん、大人になったら、一緒に暮らししてくれる？」と聞いてきます。小学生なのに、自分の将来に不安を感じているのです。

私には、この事件を通してより一層強くなった願いがあります。妹のような障がいを持った人たちが、希望を持って自分の人生を歩いていけますように。私の両親のような、障がいを持った人を育てている人たちが、安心して我が子より先に旅立てますように。そして、私のような人たちが父母亡き後も、障がいのある兄弟を支えていけますように。

同和問題を正しく理解しよう

同和問題とは、日本の社会の歴史的発展の過程で形づくられた身分制度や歴史的、社会的に形成された人々の意識に起因する差別が、様々な形で現れている我が国の人権問題である。

同和問題の解決のために、教育には大きな役割がある。神奈川県教育委員会では、同和問題の正しい理解を促し、差別を許さない心、人権を尊重する心を育むため、児童・生徒用学習教材及び教職員用研修教材として「人権学習ワークシート集一（小中編 第14集）一」（平成26年2月）の48頁から51頁まで、この問題を取り上げている。

教職員がこの問題を正しく理解するために、ここでは、同和問題の指導のポイントを解説するので、各「人権学習ワークシート集」の解説と合わせて読み、指導してほしい。

同和問題の正しい理解

近年、インターネットを悪用した行為が増えており、他人への中傷や侮蔑、無責任なうわさ、特定の個人のプライバシーに関する情報の無断掲示、差別的な書込み、インターネット上でいじめなど、人権やプライバシーの侵害につながる情報が流れている。同和問題に関して差別を助長するような内容の書込みがされることもある。児童・生徒がインターネットにおける差別的な書き込みや根拠のない情報を信じていることがないように、指導する立場の教職員は同和問題の実態を正しく理解し、伝えることが重要である。また、自他の人権を守ろうとする意識・意欲・態度を向上させ、それらを実際の行為に結びつける実践力や行動力を育成することが求められる。

県教育委員会が昭和53年に通知した「神奈川県同和教育基本方針」は、平成25年3月に改訂された「かながわ人権施策推進指針」に取り込まれて整理された。

国の動きとして、平成28年12月9日に「部落差別の解消の推進に関する法律」が成立し、同月16日施行（資料1）された。立法に先立ち、衆議院法務委員会における附帯決議（平成28年11月16日）及び参議院法務委員会における附帯決議（平成28年12月8日）（資料2）がなされている。

この法律は、全ての国民に基本的人権の共有を保障する日本国憲法の理念にのっとり、部落差別は許されないものであるとの認識の下にこれを解消することが重要な課題である事に鑑み、部落差別の解消に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、相談体制の充実、教育及び啓発等について定めることにより、部落差別の解消を推進し、部落差別のない社会を実現することを目的とするものである。

同和教育の授業を実践する前に、次の図書を読了することをお勧めする。なお、これらの図書は、県立学校及び市町村教育委員会に配付している。

- ・「これでわかった！部落の歴史 私のダイガク講座」 上杉 聡 解放出版社（平成16年）
- ・「ビジュアル部落史第1巻～第5巻」 大阪人権博物館（編） 解放出版社（平成18～20年）
- ・「神奈川の部落史」 「神奈川の部落史」編集委員会（編集代表 藤野 豊） 不二出版社（平成19年）

教職員が同和問題を正しく理解した上で、児童・生徒にも差別されてきた人々が果たしてきた役割や、残してきた文化を伝え、それが現代の私たちの生活につながっていること、明治時代における身分制度の廃止、大正時代の水平社運動などの歴史的背景を正しく理解させることが重要である。

同和教育の進め方として、授業の進行状況によっては、次のような計画が想定される。

○計画例

歴史学習や歴史的分野の授業で、日本を代表する芸能文化である歌舞伎や能、また、寺院の枯山水などが差別されてきた人々によって生み出されたものであることを、視聴覚教材等を使用して学習する。

また、江戸時代の身分制度では、死んだ牛馬の解体や皮革業、雪駄づくりなどの生活に欠かせない仕事をしてきたことや、優れた技術によって、新しい学問、医学の発展に貢献したこと等を学習する。

さらに明治時代の「解放令」、大正時代の「全国水平社」について確認しながら、差別されてきた人々の生活が、どのように変化していったのか等を学習する。

また、政治の働きなど、公民的分野の授業で、日本国憲法を扱う際に、基本的人権について理解させ、現代における偏見や差別の解消に取り組もうとする能力や態度を育てながら学習する。

資料1

部落差別の解消の推進に関する法律

平成28年12月16日施行

(目的)

第1条 この法律は、現在もなお部落差別が存在するとともに、情報化の進展に伴って部落差別に関する状況の変化が生じていることを踏まえ、全ての国民に基本的人権の享有を保障する日本国憲法の理念にのっとり、部落差別は許されないものであるとの認識の下にこれを解消することが重要な課題であることに鑑み、部落差別の解消に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、相談体制の充実等について定めることにより、部落差別の解消を推進し、もって部落差別のない社会を実現することを目的とする。

(基本理念)

第2条 部落差別の解消に関する施策は、全ての国民が等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重されるものであるとの理念にのっとり、部落差別を解消する必要性に対する国民一人一人の理解を深めるよう努めることにより、部落差別のない社会を実現することを旨として、行われなければならない。

(国及び地方公共団体の責務)

第3条 国は、前条の基本理念にのっとり、部落差別の解消に関する施策を講ずるとともに、地方公共団体が講ずる部落差別の解消に関する施策を推進するために必要な情報の提供、指導及び助言を行う責務を有する。

2 地方公共団体は、前条の基本理念にのっとり、部落差別の解消に関し、国との適切な役割分担を踏まえて、国及び他の地方公共団体との連携を図りつつ、その地域の実情に応じた施策を講ずるよう努めるものとする。

(相談体制の充実)

第4条 国は、部落差別に関する相談に的確に応ずるための体制の充実を図るものとする。

2 地方公共団体は、国との適切な役割分担を踏まえて、その地域の実情に応じ、部落差別に関する相談に的確に応ずるための体制の充実を図るよう努めるものとする。

(教育及び啓発)

第5条 国は、部落差別を解消するため、必要な教育及び啓発を行うものとする。

2 地方公共団体は、国との適切な役割分担を踏まえて、その地域の実情に応じ、部落差別を解消するため、必要な教育及び啓発を行うよう努めるものとする。

(部落差別の実態に係る調査)

第6条 国は、部落差別の解消に関する施策の実施に資するため、地方公共団体の協力を得て、部落差別の実態に係る調査を行うものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

資料2

衆議院法務委員会における附帯決議

平成28年11月16日

政府は、本法に基づく部落差別の解消に関する施策について、世代間の理解の差や地域社会の実情を広く踏まえたものとなるよう留意するとともに、本法の目的である部落差別の解消の推進による部落差別のない社会の実現に向けて、適正かつ丁寧な運用に努めること。

参議院法務委員会における附帯決議

平成28年12月8日

国及び地方公共団体は、本法に基づく部落差別の解消に関する施策を実施するに当たり、地域社会の実情を踏まえつつ、次の事項について格段の配慮をすべきである。

1 部落差別のない社会の実現に向けては、部落差別を解消する必要性に対する国民の理解を深めるよう努めることはもとより、過去の民間運動団体の行き過ぎた言動等、部落差別の解消を阻害していた要因を踏まえ、これに対する対策を講ずることも併せて、総合的に施策を実施すること。

2 教育及び啓発を実施するに当たっては、当該教育及び啓発により新たな差別を生むことがないように留意しつつ、それが真に部落差別の解消に資するものとなるよう、その内容、手法等に配慮すること。

3 国は、部落差別の解消に関する施策の実施に資するための部落差別の実態に係る調査を実施するに当たっては、当該調査により新たな差別を生むことがないように留意しつつ、それが真に部落差別の解消に資するものとなるよう、その内容、手法等について慎重に検討すること。

1 対象

教職員

2 ねらい

読み書きに困難のある子どもの「学び難さ」に気づき、理解を深める。

3 準備するもの

○ワークシート1、2、3 ○参考資料

4 解説

知能や聞いて理解する能力には問題がないとしても、読み書きに特に困難を示す発達障がいの一種に、発達性ディスレクシアがある。練習しても音読ができないとか、音読ができたとしてもスピードが遅いとか、漢字や仮名の形を思い出すことが難しい場合もある。

教員の多くは、文字が読めることが普通だから、誰でも自分のように読めるものだと思いがちである。読みづらい人がいるとは、なかなか想像できないのではないか。このワークでは、錯視※1と疑似的に作った発達性ディスレクシアの人の見え方※2を体験し、「学び難さ」に気づき、理解を深め、自分が普通だと思っていることが、そうではない児童・生徒がいることを感じてほしい。

※1 ワークシート2について・・・錯視とディスレクシアの関連については学術的な裏付けはなく、錯視とディスレクシアとは関係なく、単なる差し絵として作者から使用許可を頂いたものである。あくまでも、場をあたためるアイスブレイキングであるということと、見ているものが歪んだり、ちらついたりすることを体験してもらうために、このような構成にしている。

※2 ワークシート3について・・・読みにくさを想像してもらうために、このような資料を使っているが、ディスレクシアの人の見え方が、必ずしもこのようなものだとは限らない。

5 進め方（展開例） 50分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	資料など
導入 10分	<p>◆学習の確認（2分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動の流れの説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（8分）</p> <p>「どんなふうに見えるかな」</p> <p>①ワークシート2</p> <p>1～2の図がどのように見えるか、まず個人で考え、グループで意見交換をする。</p> <p>②①について、全体に発表して共有する。</p> <p>③まとめの話を聞く</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動の流れを簡単に説明する。 ワークシート1を配付する。 <ul style="list-style-type: none"> 4人程度のグループで行う。 ワークシート2を配付する。 <p><見え方></p> <p>1 黒い部分の上と下を隠すと「ココロ」という文字が見える。</p> <p>2 A…白の交差点部分が暗く見える。 B…白丸の中に黒いものが光って見える。 C,D…図が動いたり、ゆがんで見えたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート1 ワークシート2
<p>・見る位置や角度、焦点の合わせ方で違うものが見えることに気づく。</p> <p>・錯視によって、人間の目（脳）は実際とは異なる見え方をすることがあることを知る。</p>			

展開 25分	◆アクティビティ (25分) 「どんなふうに見えるかな」 ①次の枠内の説明を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート3を配付する。 ・次の枠内の説明をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート3
	<p>知能や、聞いて理解する能力には問題がないとしても、読み書きに特に困難を示す発達障がい的一种に、発達性ディスレクシアがある。練習しても音読ができないとか、音読ができたとしてもスピードが遅いとか、漢字や仮名の形を思い出すことが難しい場合もある。見えた文字を音に変換する情報処理が大変なので、文字が増えたり小さくなったりしたときに、ストレスで歪んだり線に見えてきたりすることもある。</p> <p>このワークシートに掲載されているものはディスレクシアの人の見え方の一例である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・このような見え方の子どもが困ることはどのようなことか考えさせる。 ・本人との関わり方や授業づくり、教材づくりについて考えさせる。 ・本人と相談しながら、より良い方法を検討していく姿勢が大切であることを確認する。 	
まとめ 15分	◆まとめ (15分) ①参考資料をもとに話し合う。 ②まとめの話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料を配付する。 ・下枠内のまとめを読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料
	<p>発達性ディスレクシアについて学んだが、他にも、文字が増えたり小さくなったりしたときに、ストレスで歪んだり線に見えてきたりすることもある。また、初めは普通に見えていても、読んでいるうちに重なってくる、団子みたいになってくる、黒い棒のような線になってくるという子どももいる。</p> <p>ディスレクシアがある人の困難さに気づき、共感しつつ、具体的な支援ができるのが教員(担任)である。教員が日々の学習指導の中でディスレクシアに気づく主なものとしては次のことが挙げられる。</p> <p>○音読の困難、文字(漢字・平仮名・片仮名) ○仮名の覚えにくさ(ローマ字アルファベットを含む) ○漢字の困難(読字、書字・習得と定着) ○九九の暗唱(数唱)困難 ○黒板書写の困難、書写速度の遅さ ○ワーキングメモリの問題(短期記憶の困難)など</p> <p>教員は、練習すれば誰でもがスラスラ教科書が音読できるようになる、漢字を繰り返し練習すれば覚える、といったことが全く当てはまらない児童・生徒が、クラスの35人中2~3人は存在するという事を知り、状況に応じて選択式のプリントにしたり、ひらがなを使っただけの回答をOKにするなど、具体的な配慮をしていく必要がある。</p>		
	◆「振り返り」に記述する。		

<参考資料など>

北岡明佳の錯視のページ(立命館大学・総合心理学部/文学部 心理学専攻 教授)

『子どもの「学び難さ」に気づく』 どんなふうに見えるかな

アイスブレーキング

1

2 A

B

C

D

アクティビティ

・ワークシート3の文章を読んでどんな気持ちになりましたか。

・当事者の児童・生徒とどのようにかかわっていくか考えましょう。

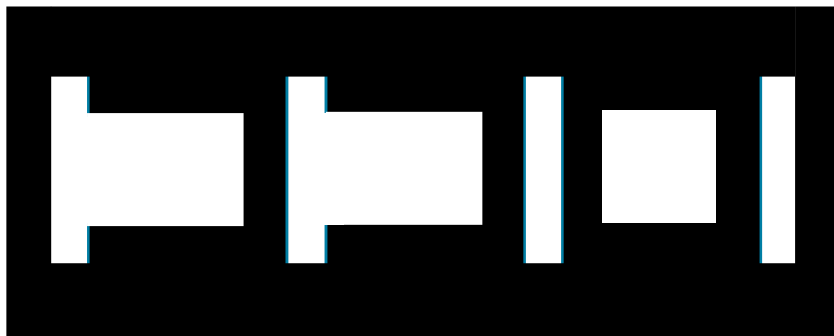
振り返り

・今日の活動をとおして考えたことや、気づいたことを書きましょう

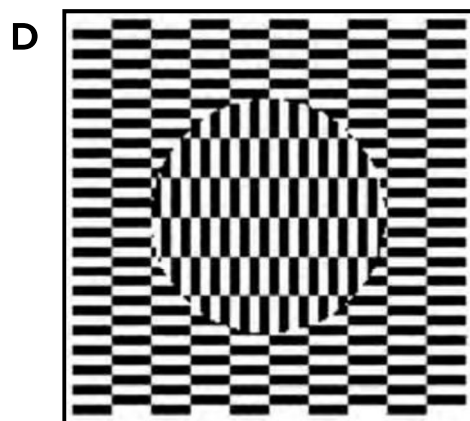
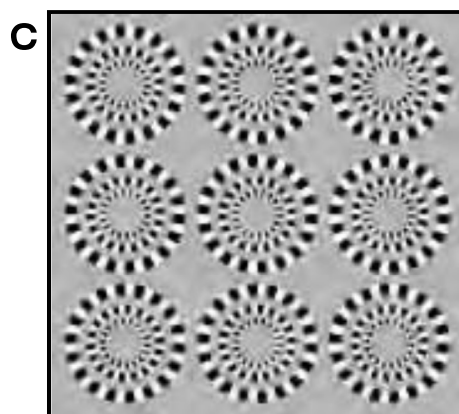
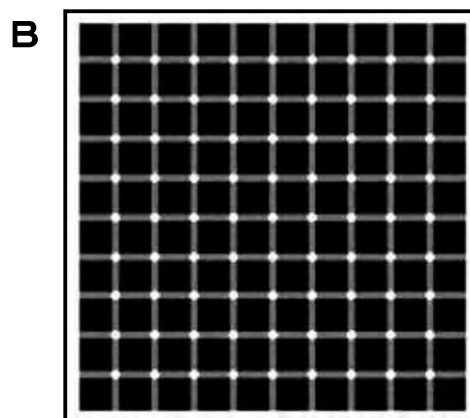
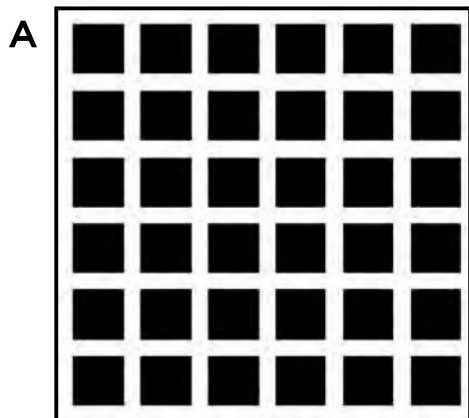
『子どもの「学び難さ」に気づく』 どんなふうに見えるかな

次の1～2の図を見て、グループで意見を出し合ひましょう

1 何が見えますか。



2 A～Dの図がどのように見えますか。



『千代子の「学び難さ」について』 みんなのついでに見えるかな

①～⑤の文章を読んで、感じたことを話し合ってみよう。

①

むかしむかし、あるところに、おじいさん
とおばあさんが住んでいました。
おじいさんは山へばかりに、おばあさん
は川へせんとくに行きました。

②

むかしむかし、あるところに、おじいさん
とおばあさんが住んでいました。
おじいさんは山へばかりに、おばあさん
は川へせんとくに行きました。

③

むかしむかし、あるところに、おじいさん
とおばあさんが住んでいました。
おじいさんは山へばかりに、おばあさん
は川へせんとくに行きました。

④

むかしむかし、あるところに、おじいさん
とおばあさんが住んでいました。
おじいさんは山へばかりに、おばあさん
は川へせんとくに行きました。

⑤

むかしあるところに、おじいさん
とおばあさんが住んでいました。
おじいさんは山へばかりに、おばあさん
は川へせんとくに行きました。

発達性ディスレクシア（学習障がい）～教室で求められる対応～

ディスレクシアの児童・生徒は、公立小・中学校では「35人」のクラスに、2～3人

ディスレクシアの子ども達は、他の多くの人と同じように文字が見えている。見えているが、見えた文字を音に変換する情報処理が大変なので、文字が増えたり小さくなったりしたときに、ストレスで歪んだり線に見えてきたりすることがある。

読み書きの特徴のチェック表

以下の項目の多くに当てはまる場合、発達性ディスレクシアである可能性が高いと考えられる。

「読みの特徴」

- 「ひらがな」、「カタカナ」を読み誤る
- 促音「きって」、拗音「ちょ」、長音「こうてい」を誤る
- 助詞部分、語尾、形や発音が似ている文字（「ツ」と「シ」、「b」と「d」など）を誤る
- 漢字を読み誤るもしくは、読めない
- 文章の読みが「たどたどしく」時間がかかる

「書き」の特徴

- 小学校2年生以上で、「ひらがな」、「カタカナ」を書き誤る
- 文章を書く際、「ひらがな」の使用が多い
- 「口頭」で言えることを、同じように書くことが難しい
- 文字を「書くこと」に時間がかかる
- 漢字が「覚え難く」、覚えてもすぐに忘れる
- 漢字を「書こうとする際」、わからないという反応が多い
- 漢字の形態が、15度以上傾く傾向がある
- 漢字の構成要素間の間隔が広い文字を書く傾向がある

「読み・書き」の特徴

- 板書された文字を正確に写せない、写すのに時間がかかる

教室で求められる対応

配慮してほしい点（さりげなく全員に、または、本人と事前に相談）

- ・プリントにふりがなを振る
- ・テストの読み上げ
- ・テスト時間の延長

※読みこなす時間が足りない場合

- ・事前に資料を渡す（読み上げ可能なテキストで渡す）

※板書の負担、書く提出物の負担を減らすために

- ・資料を渡す
- ・穴埋め式
- ・撮影OK
- ・ワープロ（タブレット）
- ・ひらがなOK

教科書の音読や算数（数学）の問題を声に出して解くといったことにストレスを感じている子がいるということ、練習すればスラスラ音読できるようになる、漢字を繰り返し練習すれば覚えるといったことが全く当てはまらない子がいるということを知っておいてほしい。

<参考資料など> 「NPO法人 発達サポートネット バオバブの樹 ことばと読み書き すーん」

令和元年県立学校人権教育研修講座研修資料より

「ボールを蹴る」「字を書く」など協調運動に係る困難

書字がマスに入らない、文字のバランスが整わない状態の子どもについて、発達性ディスレクシアと混同しやすい障がいに、発達性協調運動障がいがあります。これは筋肉や神経、視覚・聴覚などに異常がないにもかかわらず、「ボールを蹴る」「字を書く」などの協調運動に困難を呈するものです。

この障がいのある子どもは、いわゆる「不器用な子」「運動が苦手な子」として見られ、学業成績に影響が及びます。また、同世代の子どもとの遊びについていけないといった社会的な困難も生じます。症状の程度によっては、社会生活への適応を促すための生活技能訓練が必要になります。

出現率は、1クラスに3～4人

この障がいが見れる割合は、6～10%と言われており、1クラスに3～4人在籍していると考えられます。走ったり跳んだりといった全身運動(粗大運動)、文字を書いたり、はさみを使ったりボタンを留めたりといった手先の運動(微細運動)、スキップをしたり縄跳びをしたり楽器を演奏するなどの組み合わせ運動(構成行為)に、単独であるいは複数の困難が生じます。

実際に通常学級の先生方に意見を聞くと、「協調運動のつまずきが気になる児童・生徒はいる」という回答が多く聞かれます。ところが、この診断名を知らない教員は、まだまだたくさんいるのが現状です。運動のつまずきは、学校生活全般に影響することが考えられることから、子どもたちの支援を考えていくには、とても大切な視点のはずが、残念ながら見落とされてしまうことがあります。

映画「ハリー・ポッター」シリーズの主演俳優ダニエル・ラドクリフは、この障がいを持っており、インタビューに答えて、靴ひもが結べず苦しんだことをはじめ、学校では何をやってもうまくいかないことが、とてもつらかったと明かしています。

簡単な課題からのスモールステップを、評価は焦らずポジティブに

不器用さからくる学習場面での問題は書字、図工、音楽などにもみられます。小学校低学年くらいまでは運動自体の困難に注目されがちですが、小学校高学年頃から思春期になると二次的な心理社会的問題が深刻になってきます。具体的には、自尊心の低下や消極的な態度、集団からの孤立などの問題です。これらは長期にわたる人格の形成にも影響することが考えられます。この問題を回避し、より豊かな生活を送るためには、個の不器用さに焦点を当てた発達支援が不可欠です。子どもの不器用さに対する理解を早い段階から深め、発達の視点から子どもにあった方法で支援していく必要があります。簡単な課題からのスモールステップを心がける、評価は焦らずポジティブに行う、活動の楽しさを味わえる魅力的な課題にする、自己達成感の向上を大切にする、活動に集中しやすい環境の工夫を行う、などです。これらの支援のポイントは、運動面に限らず、発達障がいのある子ども等への発達支援に必要なことでもあります。

<参考資料など>

国立特別支援教育総合研究所HP びわこ学院大学教育福祉学部スポーツ教育学科
藤井 茂樹氏 論文

「あたり前」は、あたり前？

1 対象

教職員（研修での使用を想定）

2 ねらい

今、日本では、友達が「あたり前」と思っていることができず、つらい思いをしている子どもたちがいるという現実がある。身の回りで「できてあたり前」「やってあたり前」と思われることが、必ずしも「あたり前」ではないことに気づき、思いやりや配慮のある行動ができるようにする。

3 準備するもの

○ワークシート

4 解説

自分が「あたり前」と思っていることを、すべての人が同じように「あたり前」と感じているとは限らない。常にそのことに思いを巡らせ、特定の視点・価値観を他者に押し付けてしまわないような言動が取れるようにしたい。

厚生労働省の調査（平成28年度）によれば、日本の子どもの貧困率は13.9%（およそ7人に1人が貧困）と、先進国の中でも最悪の水準と言われている。ここで言う貧困とは、人間として最低限の生存を維持することが困難である「絶対的貧困」ではなく、その国の文化水準・生活水準と比較して困窮した状態である「相対的貧困」を意味している。つまり、衣食住は整っているものの、友達が「あたり前」と思っていることができずにつらい思いをしている子どもたちがたくさんいるということである。

「子どもの貧困」は、それに該当する子どもたちが教室にいる可能性も高く、授業として扱いにくいテーマだが、教職員として理解しておくべき重要なテーマでもある。そこで、本ワークは「教職員向け」として作成した。子どもたちの何気ないやりとりをとおして、貧困状態にある子どもたちを気遣い、もし自分がそのような子どもたちの担任だったら、どのような配慮が必要なのか、どのような指導や支援ができるのかについて考えていくことをねらいとしている。

5 進め方（展開例） 50分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	資料など
導入 10分	<p>◆学習の確認（2分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の流れや留意点の説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（8分）</p> <p>「好きな調味料は？」</p> <p>①司会が、ひとつ食品を示す。</p> <p>②その食品を食べるときの調味料を個人で考える。</p> <p>③掛け声に合わせて、全員で同時に言い合う。</p> <p>④食品を変えて、①から繰り返す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 4人程度のグループで行う。 調味料に複数の選択肢があり得る食品を示す（例：目玉焼き、フライドポテト、ソーセージなど）。 	
<p>◆自分が「あたり前」と感じることは、人によって異なっている。</p>			

<p>展開 30分</p>	<p>◆アクティビティ（30分） 「『あたり前』は、あたり前？」</p> <p>【場面1】（AとBの会話）</p> <p>①司会と発表者を決める。</p> <p>②グループで向かい合って、ワークシート【場面1】の内容を読む。続いて、【設問1】及び【設問2】について、各自、考えをまとめる。</p> <p>③グループで意見を出し合う。</p> <p>④グループの発表者がグループで出た意見を発表し、全体で共有する。</p> <p>【場面2】（CとDの会話）</p> <p>①司会と発表者を決める。</p> <p>②グループで向かい合って、ワークシート【場面2】の内容を読む。続いて、【設問3】及び【設問4】について、各自、考えをまとめる。</p> <p>③グループで意見を出し合う。</p> <p>④グループの発表者がグループで出た意見を発表し、全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配付する。 ・他人と同じことができない児童・生徒がいて、つらい思いをしていることに気づかせる。 ・何ができるのか、どのような言葉かけができるのか考え、それを互いに共有することでよりよい対応ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・ワークシート
<p>まとめ 10分</p>	<p>◆まとめ（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめの話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修をとおして参加者から出された感想や意見をもとに、ねらいを押さえまとめる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省の調査（平成28年）によれば、日本の子どもの貧困率は13.9%（およそ7人に1人が貧困）と、先進国の中でも最悪の水準と言われている。 ・日本においては、絶対的貧困より、相対的貧困（周りと同じことができない）が問題であり、当該児童・生徒は日常の友達との何気ないやり取りの中で、つらい思いを感じていることがあるということを理解しておく必要がある。 ・現実的に、ワークシートの登場人物のような境遇にいる児童・生徒に対して（あるいは、その周囲に対して）、適切に指導しなければならないことも想定しておく必要がある。 			

<参考資料など>

「平成28年 国民生活基礎調査」 厚生労働省ホームページ（平成29年6月）

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa16/>

「あたり前」は、あたり前？

次の会話文を読み、設問について考えてみてください。

【場面1】 休み時間、教室にてー

A：ねえねえ、今度の土曜日に、みんなで一緒に〇〇モールに行くって話になってるんだけど、Bもどう？

B：んー、①私あんまり〇〇モールって興味ないんだよねー。人混みにウンザリって
いうか……。

A：でもさ、買い物したり、映画見たり、みんなで行けば楽しいって！

B：きっとそうだよな。

A：ほうら、たまには一緒に行こうよ。

B：まあね。でも、ごめん、私はパス。②その日は親が留守でさ。妹の面倒見なきゃ
いけないし。

A：そっか。大変だね。じゃあ、お土産買ってきてあげるね！

B：うん、ありがとう。楽しんで来て！

【設問1】

会話のやりとりから、Bさんは①、②のように様々な理由をつけて、あまり一緒に遊ぶことがないようです。なぜBさんは誘いを断るのでしょうか。Bさんには、どのような事情があると考えられますか。

【設問2】

Bさんが浮かない顔をしているので学級担任であるあなたがそっと呼んで話を聞いたところ、Bさんは、本当の理由は語りませんでした。ぽつりと「本当は私だって行きたいんだ」と言いました。あなたは、この後どのような対応をしたらよいと思いますか。

【場面2】 野球部の練習が終わった後一

C：お前、グローブ新調した？

D：実は、昨日誕生日でさ。プレゼントにもらったんだ。

C：①へえ、よかったじゃん。新品の革のにおいがする。

D：Cってさ、グローブ②めちゃくちゃ使い込んでるよね。

C：そうなんだ。これはお父さんが使っていたのをもらったから。

D：だからか。③結構古そうだなと思っていたんだ。

C：まあね。道具は大事にしないと。メジャーリーガーも「野球がうまくなりたかったら、道具を大事にしろ」って言うてるしね。

D：なるほどー、さすがチームのエース。言うことが、深い！

【設問3】

①の表現から、Cさんは新しい道具を買ってもらったDさんをうらやましく思っているように感じられます。また、②、③から、Cさんは現在、古い道具を使用していることがわかります。Cさんには、どのような事情があると考えられますか。

【設問4】

チームで新しいウィンドブレーカーを作ることになり購入のための希望票を配付した翌週、顧問であるあなたに、Cさんが部活動を辞めると言ってきました。Cさんは話を聞いても、はっきりとした理由を言いません。でも最後に「本当は野球は続けたい」と言いました。どのような対応をしたらよいと思いますか。

アイスブレイキングとは、「ice=よそよそしさや、形式ばった態度」を「break=破る、やわらげる」ことから生まれた言葉で、「話の口火をきる」とか、「和やかな空気にする」といった意味がある。

アイスブレイキングは、通常、参加体験型の学習や研修のはじめに、参加者の緊張をときほぐし、自由に話せる安心感をつくり出すために行われるが、学級開きなどの出会いの場や、保護者会など、既にある程度知り合いになっている集団の出会い直しの場で用いることもできる。

ここでは、アイスブレイキングをより広義に「人と人を出会わせ、集団の心をほぐす活動」と捉え、通常のアイスブレイキングよりも所要時間の長いものも紹介している。

いずれも、人権教育のねらいをふまえたアイスブレイキングとなっているので、ワーク実施前の導入として、また、学級活動時などに単独で、気軽に実施してほしい。

① 共通点はなに？

ねらい

共通点を探し出すことで、友だちとの距離を縮める。

対象

児童・生徒、教職員、保護者

所要時間

約5分

用意するもの

○「共通点はなに？」ワークシート

進め方

- ① 2人組になる。
- ② 2人の共通点を探す。
その際、「同じノートを持っている」「ハンカチの色が同じ」のように、見える共通点だけではなく、見えない共通点も探す。
- ③ 3分間で探し、見つけたものをワークシートに書き出す。
- ④ グループで行うなど人数を増やす。

解説

共通点が見つければ見つかるほど親近感がわき、心の距離が近づく。なかなか見つからない場合でも、探すためのコミュニケーションを取ることで、それまでよりも関係が近くなるのではないか。

新学期が始まってすぐなど、出会いの季節に行うのが有効だが、既に知り合っているはずの友だちの新たな一面を知ることがをねらって他の時期に行うこともできる。

きょうつうてん
「共通点はなに？」

() 年 () 組 () 番 名前 _____

1 共通点を探して書き出しましょう。

「同じノートを持っている」「ハンカチの色が同じ」のように、見える共通点だけでなく、見えない共通点についても探してみましょう。
時間は3分間です。

2 共通点を探して気づいたことを書きましょう。

② OOと言えば？

ねらい

- ・緊張をときほぐし、自由に話せる安心感をつくり出す。
- ・視点を提供し、本題への導入とする。

対象

児童・生徒、教職員、保護者

所要時間

約5分

用意するもの

○「OOと言えば？」ワークシート 各グループ1

進め方

- ①3～4人組で行う。
- ②教員が出したテーマを聞いて、思いついたものを、どんどん発言する。
(テーマの例：「春と言えば」「海と言えば」「スポーツと言えば」他、何でもよい)
- ③進行役は一つひとつを受け止め、復唱しながらワークシートなどに書く。
- ④特定の人ばかりが発言しているようであれば、他の人の発言を促す。
※②から④をくり返す。
- ⑤参加者の気持ちが高まってきたところを見計らい、学習の本題に関連するテーマを出すこともできる。

解説

冒頭の時間を工夫することで、参加者の興味・関心を高めたり、活発な意見交換につなげたりすることができる。このアイスブレイキングでは、テーマについてテンポよく回答することで、全員が声を発する機会をつくとともに、発言しやすい雰囲気もつくる。また、テーマを徐々に本題に近づけることで、参加者の思考を自然に深めることができる。

出てきた答えを復唱し、ワークシートや黒板などに書き留めるだけで、発言者は自分の意見を受け入れられたことに安心し、次の発言への意欲へとつながる。

「〇〇といえは？」

()年()組()番 名前 _____

「〇〇」と聞いて、思いついたものを出し合ひましよう。

【1回目】

テーマ	
思いついたもの	<ul style="list-style-type: none"> • • • •

【2回目】

テーマ	
思いついたもの	<ul style="list-style-type: none"> • • • •

【3回目】

テーマ	
思いついたもの	<ul style="list-style-type: none"> • • • •

③ 言葉さがし（たべもの編）

ねらい

友だちと力を合わせて取り組むことで、協力することの楽しさやすばらしさを体験する。

対象

児童・生徒、教職員、保護者

所要時間

約 10 分

用意するもの

○「言葉さがし（たべもの編）」ワークシート 各グループ 1 枚

進め方

- ① 3～4 人組になり、取り組む順番を決める。
- ② ワークシートから、1 人ずつ順番でたべものを探し○をつける。
- ③ 自分の番以外では○をつけることができないが、ヒントを出すことはできるので、一緒に探すように促す。

※ 「全員で○個以上探す」というように、目標を決めてから取り組むことにしてもよい。
ひらがな表記となっているが、濁点、長音等はどこにつけてもよいものとする。
同じ文字を何度使ってもよい。

解説

1 枚の紙をみんなで囲むことで、まず物理的な距離が縮む。そして、教え合ったり助け合ったりすることで、心理的な距離も縮まる。そうして一緒に行くことで、助け合うことや友だちと取り組むことのすばらしさや大切さに気づくことができる。

ことば 「言葉さがし（たべものの編）」

ワークシート

() 年 () 組 () 番 名前 _____

つぎ ひょう もじ つか 次 の 表 の 24 文字 を 使 っ て 、 た べ も の の 名 前 を 見 つ け て 下 さ い 。 濁 点 、 長 音 等 は ど こ に つ け て も よ い も の と し て 考 え て 下 さ い 。 同 じ 文 字 を 何 度 使 っ て も 、 大 丈 夫 で す 。

う	り	む	す
さ	し	く	そ
な	お	と	ね
ん	た	い	こ
き	ゆ	ま	み
ら	か	に	は
だくてん 濁点	はんだくてん 半濁点	もししょう 文字小	ちょうおん 長音

した 下の た べ も の を 見 つ け た ら ○ を つ け ま す 。

たまご	だんご	なす	りんご
すいか	そば	たまねぎ	にく
むしばん	とまと	おむらいす	うどん
かに	さとう	おにぎり	ばなな
さしみ	さかな	すし	ごま
みそ	みかん	ねぎ	しゅーくりーむ

④ うれし、はずかし、魔法のことば

ねらい

言われてうれしい言葉を伝え合う体験をとおして、お互いを認め合おうとする雰囲気づくりをする。

対象

児童・生徒、教職員、保護者

所要時間

約 15 分

用意するもの

○「うれし、はずかし、魔法のことば」ワークシート

進め方

①「自分が言われてうれしい言葉をワークシートに書く。（例を挙げる。）

(例) ○○が上手だね
だいじょうぶ
すごい
いっしょに遊ぼう

②ペアでワークシートを交換し、書かれている言葉を伝え合う。

その際、気持ちを込めて伝え、言われたら「ありがとう！」と笑顔で受ける。

③最後に、ワークシートに書かれていない「相手のいいところ」を伝える。

④仲間に言われた「自分のよいところ」をワークシートに書く。

⑤さらにペアを替えて行う。

解説

「自分が言われてうれしい言葉」は、「自分ががんばっていること」かもしれない。年齢が上がるにつれて恥ずかしくて言えなくなってしまうがちだが、自分のよさに意識を向ける機会を設けることは、自己肯定感を育む。

また、仲間が書いた言葉を知ることは相互理解となり、相手のよいところに着目し、認め合っていこうとする人権尊重の意識を高めることにつながる。

「うれし、はずかし、魔法のことば」

()年 ()組 ()番 名前 _____

1 自分が言われてうれしい言葉を書きましょう。

2 仲間と言われた「自分のよいところ」を書きましょう。

--

16

リフレーミング

自分を知ろう

リフレーミングとは、ある枠組み（フレーム）で捉えられている物事を、枠組みをはずして違う枠組みで見ることを言う。同じ物事でも、人によって見方や感じ方が異なり、ある角度から見たら短所であるものも、別の角度から見たら長所になる。

リフレーミング アクティビティを実施することで、児童・生徒同士の関係、また、児童・生徒と保護者との関係をよりよいものにし、自己肯定感を高めることが期待できる。学級活動や保護者会などで実施してほしい。

ねらい

自分自身に対する見方を変える体験をとおして、子どもの自己肯定感を高める。

対象

児童・生徒、教職員、保護者

所要時間

約30分

用意するもの

○「自分を知ろう」ワークシート

進め方

- ①否定的なイメージの言葉を、肯定的なイメージの言葉にリフレーミングする。
- ②最初は、1人で、次に4人ほどのグループで、その結果を共有する。
- ③②の結果を何人かが発表する。
- ④自分の短所として認識している性格などを、3つあげる。
※他人に知られてもよいものをあげる。
- ⑤グループで、④を共有し、お互いにリフレーミングし合う。
- ⑥このワークをとおして感じたことを書く。何人かが発表する。

解説

成長するにつれて自分の短所を意識しがちになる。しかし、見方を変えれば、自分では短所と思っていることも長所となる。ワークをとおして自分のよさに気づき、自己肯定感を高めることにつなげることができる。

◇リフレーミングの例

① あきっぽい	好奇心旺盛	⑦ のんびりした	細かいことにこだわらない
② うるさい	活発・元気	⑧ いいかげん	おおらか
③ おとなしい	おだやかな	⑨ がんこ	意志が強い
④ かつとしやすい	情熱的	⑩ 気が弱い	やさしい
⑤ 調子にのりやすい	ノリがいい	⑪ あきらめが悪い	ねばり強い
⑥ わがまま	自己主張できる	⑫ 消極的	ひかえめ

「自分を知らう」

() 年 () 組 () 番 名前 _____

1 言葉のリフレーミング (言い換え)

◇人の性格を表す言葉のうち、否定的にとらえられることの多いものをあげてみました。これらを、肯定的な表現に言い換えるとすると、どうなるでしょうか？

とくちょう 特徴	こうていてき ひょうげん 肯定的に表現してみよう	
	ひとり 1人で	グループで
① あきっぱい		
② うるさい		
③ おとなしい		
④ かつとしやすい		
⑤ ちょうし 調子にのりやすい		
⑥ わがまま		
⑦ のんびりした		
⑧ いいかげんな		
⑨ がんこ 頑固		
⑩ きよわ 気が弱い		
⑪ あきらめがわる 悪い		
⑫ しょうきよくてき 消極的な		

◇言い換えをしたり、グループで話し合っ、どんな感じがしましたか？

2 自分の特徴

- (1) 自分の短所だと思ふ性格などを、3つだけあげてみてください。
(2) グループで、それをお互いにリフレーミングしてみましょう。

自分 ^{じぶん} の短所 ^{たんじょ}	リフレーミング
①	
②	
③	

- 3 この活動^{かつどう}をとおして、感じたこと^{かん}や気づいたこと^きを書きましよう^か。

--

アサーティブな表現とは、相手の意見や気持ちを思いやった上で、自分の意見や気持ちを誠実に相手に伝える方法である。相手を攻撃するような口調で意見を言ったり、逆に伝えるべきことを言わなかったりするのではなく、アサーティブな表現で伝え合うと、お互いの気持ちを受け入れやすくなる。ワークをとおして子どもへの言葉かけについて振り返り、よりよいコミュニケーションを取るきっかけにしてほしい。

ねらい

子どもの気持ちを尊重した言い方について考え、子どもとのよりよいコミュニケーションのあり方について理解を深める。

対象

教職員、保護者

所要時間

約 30 分

用意するもの

○「ポジティブ語で伝えよう」ワークシート

進め方

- ①「事例 1」を読み、「攻撃的な言い方（例）」ではなく、「子どもの気持ちを尊重し、しかも自分の思いも伝えようとする言い方」について考えワークシートに記入する。
- ②グループで、それぞれどのような言い方になるかについて意見交換する。
- ③「事例 2・3」についても同様に、子どもの気持ちを尊重した言い方を個々で考え、意見交換する。
- ④グループで出た意見を全体に発表して共有し、心掛けた点についてまとめる。

解説

アサーティブな表現を心掛けることで、子どもは「自分は尊重されている」と感じ、大人が伝えようとしていることを素直に受け入れやすくなる。良好なコミュニケーションの積み重ねが信頼関係を育む。

「ポジティブ語で伝えよう」

【事例1】 友だちや兄弟姉妹が自分の意見を聞いてくれないと、すぐにけんかをしたり、ぶつたりする。



攻撃的に言うと・・・

(例) 思いどおりにならないからってどうしていつもけんかするの！けんかして、ぶつばかりでダメでしょ！ ただのわがままだよ。

子どもの気持ちを尊重し、しかも自分の思いも伝えるように言うと・・・

【事例2】 失敗をすることを避けたくて、最初から取り組まない。



子どもの気持ちを尊重し、しかも自分の思いも伝えるように言うと・・・

【事例3】 友だちや兄弟姉妹が一生懸命に取り組んでいると、冷やかしたりちょっかいを出して邪魔しようとしたりする。



子どもの気持ちを尊重し、しかも自分の思いも伝えるように言うと・・・

アサーティブな表現の例

【事例1】 友だちや兄弟姉妹が自分の意見を聞いてくれないと、すぐにけんかをしたり、ぶったりする。

アサーティブな表現	嫌なことがあったんだね。〇〇さんは、どうしたいと思っていたの？
	けんかをしたり、ぶったりしないで気持ちを伝えるにはどうしたらいいかな？
	けんかになっちゃいそうなときは、大きく息を吸ってみようか。
攻撃的な表現	思いどおりにならないからってどうしていつもけんかするの！けんかして、ぶってばかりでダメでしょ！ただのわがままだよ。

【事例2】 失敗をすることを避けたくて、最初から取り組まない。

アサーティブな表現	少しでもやってみよう。何か手伝えることはないかな？
	前に△△したとき、ちゃんとできていたよ。今回もできるかもしれないから、やってみよう。
	失敗するのは悪いことではないよ。だって、失敗から学ぶことってたくさんあるからね。
攻撃的な表現	苦手なのは仕方ないけど、他のみんながしているのに自分だけしないというのはおかしいでしょう。

【事例3】 友だちや兄弟姉妹が一生懸命に取り組んでいると、冷やかしたりちょっかいを出して邪魔しようとしたりする。

アサーティブな表現	あなたが〇〇を冷やかしたとき、私はとても悲しかったよ。その気持ちは知っておいてね。
	さっきは〇〇をからかってしまったけれど、本当に伝えたかったことが他にあるのではないかな？
	私はあなたが一生懸命にやっている姿もちゃんと見ているよ。さっきみたいに冷やかしているときより、一生懸命なあなたの方がずっとずっとステキだと私は思うよ。
攻撃的な表現	〇〇さんは一生懸命にやっているのに、どうしてそういうことをするの！人をバカにするなんて恥ずかしいことですよ。謝りなさい。